

食品ロス削減に向けた未利用食品の有効活用の推進

令和4年度の実績

フードドライブの拡大・定着

- <目的>
- ・実施団体への支援等により、県民の認知度向上や拡大・定着を図る
 - ・各地域や実施主体の実情に応じた多様な循環モデルの構築を促進

- <実施内容>
- (1) とやまリーフードドライブ・キャンペーンの展開
- ・実施団体への資機材（のぼり、コンテナ等）の貸出、ノウハウの提供や食品寄付先との調整、広報協力（県HPでの開催情報の発信）等
 - 3月22日現在実施件数：74件（予定を含む）
（56の団体が参加、15の市町村で実施）
- (2) スーパー等での常設窓口（無人）設置の水平展開
- ・令和3年度に実証実験した常設無人窓口について、スーパー（エコ・ストア等）に向けて、ノウハウの提供や実施店舗の募集
 - 令和4年度実施件数：4件（見込み）
- (3) 地域の実情に応じたローカル循環モデルの構築
- ・関係者で直接協議する場を設け、地域内でのマッチング支援
 - ・モデル事例実施例を地域循環モデルケース*としてPR
 - *常設又は定期的な開催により食品循環のしくみを構築している事例や地域の団体・企業等が連携している事例など
 - 例：黒部市社会福祉協議会では、フードドライブ、フードパントリーなどを一元化し、各方面が協力した食糧支援のしくみの構築に向けて協議中
- (4) 県民への普及啓発
- ・高校生を対象とした出前講座やアイデアコンテストを開催



【朝日町食生活改善推進協議会】



【アルピスパスコ店（射水市）での常設フードドライブ】



【ワークショップを開催する黒部市社会福祉協議会】



【高校生によるフードドライブ実践行動】

- ◆課題◆
- ・県民参加の拡大と活動の定着に向け、引き続き、実施団体等への支援及び普及啓発が必要

フードバンク活動の拡大

- <目的>
- ・食品関連事業者から発生する未利用食品の有効活用の促進
 - ・普及啓発やマッチングの推進によるフードバンク活動の拡大

<実施内容>

富山県食品産業協会にフードバンク活動コーディネーターを設置し、フードバンク活動の普及啓発や食品の提供側と受取側のマッチングを推進

- (1) 食品提供事業者の確保
- ・食品関連事業者にフードバンク活動の働きかけ（賛同企業：35社）
 - ・事業者等への普及啓発や研修会を開催（参加者：48名）
- (2) 受取側への働きかけ
- ・社会福祉協議会や子ども食堂等へ取組みを周知
 - ・食品の受け渡しについて調整
- (3) マッチング
- ・事業者から寄せられた食品の情報をHP上で発信
 - ・提供情報や受取側の条件等を考慮し、マッチングを実施
- 食品提供事業者と受取側との合意書取り交わし件数（R5.2月末現在）：60件



【フードバンク活動に関する食品関連事業者向け研修会】（令和4年7月実施）

【主なマッチング事例】

事業者	提供食品	提供先	受渡回数
(株)ボン・リブラン（富山市）	菓子類(常温)	県内子ども食堂、フードバンク団体(13件)	40回
(株)源（富山市）	弁当類(常温)	市内子ども食堂(1件)	31回
(有)中村海産（氷見市）	干物(冷凍)	県内社会福祉法人、県内外フードバンク団体など(31件)	31回
石川製麺(株)（魚津市）	調味料(常温) 野菜加工品(冷蔵)	県内母子寡婦福祉連合会、フードバンク団体など(15件)	16回

- ◆課題◆
- ・県内のフードバンク活動定着に向け、引き続き食品関連事業者へ普及啓発が必要

令和5年度の実績

フードドライブのマッチング推進

- <目的>
- ・活動の継続、活性化
 - ・県民の理解促進と参加の拡大、取組みの定着
- <実施内容>
- (1) とやまリーフードドライブ・キャンペーンの展開
- ・実施団体への資機材（のぼり、コンテナ等）の貸出、広報協力（県HPでの開催情報の発信）等
- (2) 食育推進全国大会での普及啓発
- ・会場において、フードドライブの開催及びパネル展示等による普及啓発

フードバンク活動の促進

- <目的>
- ・県内のフードバンク活動の拡大・定着を図る
- <実施内容>
- (1) 「フードバンク活動コーディネーター」の配置
- ・フードバンク活動における当事者の確保
 - ・食品の提供側と受取側の需給マッチング
- (2) 食品提供事業者の確保に向けた普及啓発の実施
- ・パンフレット等の配布やHPでの情報発信による普及啓発
 - ・業種毎における話題等の共有と対応案についての協議・検討
- (3) フードバンク活動団体の活動支援



【マッチング活動イメージ】